

『CEFR 増補版』における Pre-A1 および A1 レベルの「仲介」

第 178 回関西スペイン語教授法ワークショップ (TADESKA) 例会 (GIDE と共同開催)

日時：2025 年 3 月 13 日 (木) 11:20 - 12:10

場所：Zoom を利用したオンライン開催

担当：江澤 照美

Mediación de los niveles Pre-A1 y A1 del MCER-VC

CLXXVIII Reunión del Taller de Didáctica de Español de Kansai (TADESKA)

Evento conjunto con GIDE

Fecha y hora: Jueves, 13 de marzo de 2025, de 11:20 a 12:10

Lugar: En línea (Zoom)

Ponente: Terumi EZAWA

『CEFR(=MCER)2001 年版』であまり詳細に定義されていなかった「仲介」は、『CEFR 増補版』において、仲介活動と仲介方略の二つのカテゴリー化や各カテゴリー内のスケール提示など大幅な変更がおこなわれた。各スケールの Pre-A1 レベルから C2 レベルまでの能力記述文を参照することで、今後「仲介」を視野に入れた言語教育および研究の進展が期待される。

ただし、日本の ELE 教育の中で「仲介」の概念を文脈化する際には日本で多数派を占める学習者の学習環境の現状を考慮する必要がある。日本の学習者は学習場所、学習期間、学習形態など多くの点で言語運用能力を高めるのが不利な状況におかれている。セルバンテス協会の研究でもこの問題は指摘されていて、スペイン語圏ではない場所でスペイン語と同系統ではない言語の母語話者が学習する場合、スペイン語圏で学ぶスペイン語と同系統の言語の母語話者に比べて上のレベルに到達するまでに時間がかかる。

日本のスペイン語学習者で多数派を占めるのは、第二外国語としてスペイン語を履修する大学生であるが、彼らが受講する授業の多くはインテンシブではなく受講時間も少ないので、CEFR の Pre-A1 レベルから A1 レベル程度の語学レベルでコースを修了することになる。このような現状の中で「仲介」を視野に入れた効果的な実践活動など果たしてできるのか。

『CEFR 増補版』によると、「仲介」の能力記述文の多くは Pre-A1 レベルや A1 レベルで「利用できる能力記述文はない」とされている。しかし、同書が教育上の規範ではない以上、教育従事者が考察を試みる余地は残されている。事実、昨年仲介とやりとりの能力育成を目指す初めての入門レベルの ELE テキストがスペインで刊行された。当該テキストは入門レベルで「仲介」活動を促しうるという点で優れた点が多く見られるが、管見では日本の初学の学習者には難易度が高すぎると思われる。

言語の初習者向けの仲介活動を考案することは容易ではない。しかし、今後の日本の ELE 教育の中で「仲介」活動を取り入れるにあたり、中上級レベルよりも Pre-A1 レベルから活用できる具体的な教室活動のアイデアを教師間で共有することが喫緊の課題である。この課題解決のためのヒントを本報告者はまず ELE 教育以外の分野に求めた。具体例として、言語横断的な『CEFR 増補版』の研究書の刊行やフランスの移民向け A1.1 レベルの教育研究や成人向け日本語教育、CARAP などに言及した。報告者の研究はまだ途上段階であるが、実際に上記の分野の中に今後 CEFR の Pre-A1 レベルや A1 レベルにおける具体的な教育実践や研究の参考になりうる動向を察知している。日本の外国語教育が抱える問題のうち教育制度に関わるものは現状を変えるのが困難であるが、入門レベルにおける「仲介」については、ELE 教育界も含め今後の研究の進展や教育実践報告の充実を期待している。

GIDE の各グループが「仲介」の活動事例を発表し、本発表が「仲介」研究の背景的な説明を担当したことで、本イベントにより日本の ELE 教育における「仲介」の扱いと教育現場の現況を参加者で共有できたのではないかと思う。この 1 年間「仲介」を研究してきた GIDE および TADASKA の多くのメンバーにご参加いただき、有益なコメントを頂戴し感謝にたえない。最後に、本報告の発表時の使用言語はスペイン語である。報告者の拙い言語的産出ややりとりに対する Zoom 視聴者の寛容な態度にもあわせて深謝したい。

以上